



校長だより 第4号

すてきな島



H26.11.5 日間賀中学校長 井本 仁

「日間賀中ホームページ」
にも、このたよりを掲載し
ています。カラーの写真等
をぜひご覧ください。

●今号の私の好きなことば●

勝ち負けなんか、ちっぽけなこと。

大事なことは、本気だったかどうかだ！ 松岡修造 氏（元プロテニス選手）

～すてきな学校祭（日中祭）～

10月21日に、学校祭（日中祭）が開催されました。本年度は、「Dream Story」というテーマのもと、夢のような楽しい学校祭にするために、これまで準備や練習を重ねてきました。当日は、オープニングからエンディングまで、各学年や部活等で趣向をこらした出し物があり、しっかり楽しみ、また、来ていただいた方を楽しませることができました。とてもよい学校祭にすることができ、すてきな思い出がまた一つできたことでしょう。



■心温まる話

毎週の朝会では、生徒が順番に発表することになっています。先日、「心温まる話」というテーマで何人かの生徒が発表してくれました。皆、とても素晴らしいものでしたので紹介します。

<10月20日の朝会から>

僕が以前、島外に友達と遊びに行った時のことです。電車の中に、席に座れないお年寄りの方がいました。そこで、僕が声をかけようか迷っている時に、他の人が席をゆずってあげていました。勇気のいることだけど、気づいてすぐに言えるのはすごいなあと思いました。その光景を見て、僕は心がとても温かくなりました。その時から、僕は困っている人がいることに気づいたら、すぐに声をかけてあげて、人のためになれたらいいなあと思いました。そして多くの人に温かい気持ちになってもらえるように、これからは、人にやさしく、人の手本となるような人になっていきたいです。
(3年 鈴木 龍 さん)

心温まる場面を見て、自分も「人のためになろう」と思えるようになったことが立派ですね。

僕は、太鼓の時、1年生が初めのころとは違ってきたなと感じました。1年生は、以前は給食を食べた後、おしゃべりをしながら歯磨きをし、太鼓の準備が遅かったけれど、今は歯磨きを早くし、太鼓をすぐに準備してくれます。また、2年生や3年生が太鼓を体育館に運んでいると、「かわります」と言ってかわってくれます。僕は、それを見たときに、1年生が前より、周りが見えるようになり、よい動きをするようになったなと思いました。太鼓が終わった時も、その瞬間に急いで太鼓やバチを片づける人もいました。太鼓の技術だけでなく、このようなことがしっかりとできる姿に、僕は心が温まります。
(2年 鈴木隆太 さん)

先輩が、後輩の良い部分に気づき、それを認めることができていることが素晴らしいです。

僕がこの間、テレビのニュースで、将来教師を志望している大学生が、貧困のため高校に行けず、将来仕事につけない人たちのために、勉強を無償で教える、というのを見ました。僕は、その大学生はいい人だなあと思いました。自分だったら、時間があれば、寝るかゲームをしたいと思います。だけど、そのニュースを見て、僕も人のために何かできないか、と思いました。そこで考えたのは、中学校のボランティアタイムの時や島っ子クリーン活動の時に真剣に取り組むことです。また、毎日の少しの掃除の時間も真剣にやりたいと思っています。そして将来みんなの役に立てるような大人になりたいです。
(1年 鈴木大翔 さん)

特に大きなことでなくても、やれることを真剣に取り組むというのはとても大事なことです。

<10月27日の朝会から>

私たち3年生は、受験生ということもあるので、より一層勉強を頑張らなければいけません。正直言って、私は勉強ができる方ではないので、夜更かしをしてまででもがんばらなければなりません。そんな中で、一番私を支えてくれるのが母です。母とは、たまにけんかをする仲なのですが、テスト週間中や勉強中では、どんなもめごとがあったとしても、夜更かしをした時は、夜食を持ってきてくれたり、昼間でも、何も言わなくても飲み物を持ってきてくれたり、「そろそろ休憩したら？」と声をかけてくれたりします。このように、私のためにしてくれる母の優しさに、胸が熱くなりました。なので、これからは、そうやって母がしてくれていることに感謝をしながら、がんばっていききたいです。
(3年 鈴木琳伽 さん)

素敵なお母さんですね。感謝の気持ちを忘れずに、これからもいい関係でいてほしいと思います。

僕は、ソチオリンピックで起こった出来事に心が温まりました。クロスカントリーという種目をテレビで観ていました。すると突然「大変です！」とアナウンスが入り、中継が変わりました。そこに映っていたのは、地元ロシア代表選手のスキー板が破損していたところでした。もうどうにもならない状況の中、カナダのコーチの一人ががけつけ、スキー板をb交換してくれました。選手はレースを再開することができ、1時間の遅れでゴールすることができました。僕は、テレビでそのやりとりを観て、人を助けるというのは、大切なことだなあと思いました。なので、僕は困っている人を助けたり、ボランティアに参加したりして、たよりになる人になろうと思いました。
(1年 鈴木颯太 さん)

そのカナダのコーチのように、思いやりと行動力がある人というのは、本当に素晴らしいですね。